下呂農林事務所の普及活動状況　令和６年５月３１日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■トマト　認定新規就農者に対する個別巡回指導を強化

【個別巡回指導の様子】

下呂市内のトマト生産ほ場では育苗管理と定植作業が進んでいます。今年度初めて農業経営を開始した１年目の生産者（５名）は、２年間の研修で学んだことを実践すべく試行錯誤しながら各作業に取り組んでいます。また、２年目の生産者（３名）は、昨年度の経験や反省を踏まえて２年目の栽培に臨んでいます。

農業普及課では、新規就農者の早期経営確立に向け、１週間に１回の頻度で個別巡回し、指導を強化しています。また、ＪＡひだ益田営農センターの営農指導員とも連携し、新規就農者の栽培状況を共有しています。

新規就農者からは育苗管理や定植後の潅水についての相談が多く、育苗管理のポイントや定植後の潅水（量や頻度）などについて指導を行っています。また、育苗土中の化学的状態やトマトの生育程度を数値で知ってもらうため、簡易型の分析機器によりｐＨ（ペーハー）やＥＣ、硝酸イオン濃度をリアルタイムで測定・提供し、栽培管理に役立ててもらっています。

農業普及課では、今後も就農間もない新規就農者に寄り添い、早期に営農定着ができるよう伴走支援を行っていきます。

■土地利用型作物　地域計画策定に合わせ集落営農組織の設立を協議

【地域計画策定の話し合いの様子】

下呂市萩原町山之口地域では、地域農業の将来像を示す地域計画策定に向けた話し合いを進めています。

前回（１月）の協議では、現状地域の担い手は高齢化しており、将来が不安であること。その解決策の１つとして、地域農業の受け皿となる集落営農組織の設立が必要との意見が出されました。

５月８日には、地域の農業委員や農業者、ＪＡ、下呂市、農林事務所の担当者による第３回目の地域計画策定に関する協議が行われ、農業普及課と下呂市農務課から集落営農組織のタイプや特徴などについて説明し、今後の取組などについての意見交換を行いました。

参加した農業者からは、「地域内には将来の担い手がいない。」「地域の農地を守るために新たな組織を作る必要があるのではないか。」などの意見が出され、年末までに集落営農組織を立ち上げられるよう今後検討を進めていくこととなりました。

農業普及課では引き続き、関係機関・団体と連携を図るとともに、集落営農組織の設立に向けた課題解決のため、税理士や中小企業診断士などの専門家派遣を行うなど、支援を行っていきます。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲　牛ふん堆肥の有機農業モデル実証ほを設置

【牛ふん堆肥モデル実証ほの生育状況】

下呂市では、有機農業を推進する国の施策に呼応し、今年度から牛に乳酸菌の入った餌を食べさせて作った牛ふん堆肥（乳酸菌入り堆肥）による水稲栽培の実証を開始しています。

５月８日、下呂市萩原町で水稲を栽培するけんこーライス㈱が昨年秋に牛ふん堆肥を施用したほ場（11.９ａ）で下呂市のブランド米「いのちの壱」の田植えを行い、実証ほを設置しました。また、比較検討を行うため、通常の有機肥料を使った栽培体系のほ場を慣行区として設置しました。

農業普及課では、５月 14 日と 27 日に生育調査を実施し、草丈、茎数、葉色の調査を行いました。まだ、移植後間もないため、茎数も少なく貧弱であったが、生育は順調に進んでいます。

今後、農業普及課ではＪＡひだの営農指導員と連携し、月２回の生育調査と病害虫の発生状況を確認し、結果については担当農家や関係機関に情報提供していく予定です。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■スイートコーン　会員ほ場を巡回し生育状況を確認

【スイートコーンの生育状況】

下呂市スイートコーン研究会では、今年も各会員が高品質なスイートコーンの販売を目指し、栽培に取り組んでいます。

５月 10 日、24 日、31 日に会員９名のほ場を巡回し、生育状況の確認と栽培管理などの聞き取りを行いました。

ほとんどの会員が５月上旬までに定植を終えており、順調な生育となっています。

会員からは「発芽率と定植後の活着も良く問題はない。」「病害虫の被害もない。」などの声がありました。一方、「いつ追肥をすると良いのか。」などの質問もあり、適切な追肥のタイミングなどについて指導を行いました。

農業普及課では、引き続き会員のほ場を巡回し、生育状況の確認と栽培管理の指導を行うとともに、６月に予定される目揃い会及び栽培研修会で栽培技術などを指導し、高品質なスイートコーン生産を支援していきます。